

Will

KENSHOKAI GAKUEN COLLEGE FOR
HEALTH AND WELFARE

専門学校 健祥会学園 同窓会会報 | ウィル



この道、私の選んだ道

からだをみる ころをみる

その先の生活をみる

作業療法学科3期生 **船越 稔さん** 4

MESSAGE

将来の日本を築く

専門職人財の育成

専門学校 健祥会学園 校長 **武田 英二** 2

こころとテクノロジーで

困難な時代を勝ち抜いて

健祥会グループ 理事長 **中村 太一** 3

+ UPDATE 卒業生近況報告 6

同窓会勉強会報告 8

学園情報 10

同窓会役員会 11

NEW FACE | 編集後記

2026 MARCH VOL.19

将来の日本を築く 専門職人財の育成

専門学校 健祥会学園

校長 武田 英二



1974年3月 徳島大学医学部医学科卒

徳島大学医学部付属病院 小児科、高松市民病院 小児科、米国インディアナ大学医学部などを経て、1992年より徳島大学医学部教授(病態栄養学)、栄養学科長、徳島大学病院「食と健康増進センター長」、21世紀COE「ストレス制御をめざす栄養科学」拠点リーダー、国立大学法人徳島大学大学院教授(臨床栄養学部門)、同大学教育研究評議員などを歴任。2014年4月 専門学校 健祥会学園(旧徳島健祥会福祉専門学校) 校長に就任。

学位/医学博士(徳島大学)

受賞等/1988年 康楽賞(財団法人康楽会)、1998年 日本ビタミン学会賞、2004年 日本栄養・食糧学会賞、2015年日本病態栄養学会アグライア賞

日本国とは

私たち日本人は、平和で自由民主主義な、素晴らしい日本を築いてきました。経済的に豊かで、夜に一人でも歩けるほど安全であり、美味しい食べ物に溢れた社会です。

さらに、日本には「卑怯なことほしくない」「弱い者いじめほしくない」といった道徳心や、豊かな多様性が根付いています。例えば、華道・茶道・柔道・相撲などは、単なる趣味やスポーツの枠を超え、精神を鍛え、相手を敬う「道」の文化として確立されています。

近年では、AI技術の活用や、ノーベル賞候補としても名高い坂口志文氏や北川進氏の活躍、そして昨年の日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)によるノーベル平和賞受賞など、世界から高く評価されています。アスリートたちの目覚ましい活躍も含め、私たちは日本人であることに、改めて大きな誇りを感じることがができます。

専門職人財の育成

本学園では多くの若者が理学

療法士・作業療法士、介護福祉士、保育士・幼稚園教諭をめざしています。専門職としての知識と技術の習得に加え、子どもや高齢者、さらにハンディキャップを有する方々を支援するために必要な優しい人間性を磨いています。これらは豊富な経験を有する教員・指導者による対面授業や実習、新入生歓迎会、学園祭などの充実した学園生活、さらに同窓会を含めた広い交流の中で育まれています。

ヒトの身体機能や精神機能は小児期から成人期に発達し、高齢期には低下していきます。末期のがん患者、ハンセン病患者、筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者では身体機能や精神機能が著明に低下します。これらの患者に対して専門職としてできることは何かを考えることで、人生を選択できる自分を磨くことの意義を考え学習することになります。

未来への展開

本学園は19996年に創設され、介護・保育分野および医療・リハビリテーション分野の発展に貢献してまいりました。

少子高齢化がすすむ日本で、学園では2026年から言語教育を通して多文化共生社会を実現し、医療・介護分野で社会貢献できる外国人財を育成することを目的として日本語学科を新設する運びとなりました。本学園では、「ことばの力」「まなぶ力」「つながる力」を教育目標に掲げ、人間力や生きる力、コミュニケーション能力の向上を図り、国家資格「介護福祉士」への道を拓きます。

私たちは常に「専門職の未来」について考えています。デジタル技術、ロボット、AI(人工知能)の活用等をイメージすることによって、発展の方向性や新しい技術の導入につながるからです。これらを通じて、日本が直面している少子高齢社会における専門職の重要性が理解され、新しい活躍につながります。本学園での勉学と技術の習得は、私たちの人生が輝く未来への大きな一歩になると確信しています。



こころとテクノロジーで 困難な時代を勝ち抜いて

健祥会グループ

理事長 中村 太一

1996年東海大学教養学部生活学科生活経済学課程卒

2013年健祥会グループ理事長に就任。2016年11月～2019年10月、徳島商工会議所第25代会頭、徳島県商工会議所連合会会長、日本商工会議所総合政策委員会委員を務める。その間、徳島県総合計画審議会委員や徳島市都市計画審議会会長、徳島地方最低賃金審議会委員、日本貿易振興機構徳島貿易情報センター会長、関西広域連合協議会委員など多くの国・県・市の審議会や委員会の委員として力を注いだ。また、2019年6月徳島県産業教育振興会会長に就任。産業教育への支援に加え経済界と教育関係者との交流をはかるべく尽力している。徳島県ゲートボール協会会長、四国地域協議会会長、公益財団法人日本ゲートボール連合理事としてゲートボールの普及にも携わる。

同窓生の皆様の活躍は
いつも嬉しく誇らしく

同窓生の皆様方には、日頃より本学園の教育活動と同窓生活動にご理解とご支援を賜り、深く感謝申し上げます。また、学生の実習受け入れへのご尽力、オープンキャンパスへのご協力、お子様やお知り合いのご紹介などにあらためて御礼申し上げます。高校生数の減少は如何ともしがたく、入学生の定員充足が厳しい状況ですが、おかげさまで国家試験合格率では昨年は2学科が100%、作業療法学科95.8%を達成しております。今年、本学園は創立30周年を迎えます。これまでに巣立った同窓生の総数は3471名になりました。健祥会の福祉の心を携え、素晴らしい活躍をなさっている同窓生の皆様をいつも嬉しく誇らしく思っています。

本学園30周年の今年は
エポックメイキングな年

本学園は文部科学省より「認定日本語教育機関」としての

認定を受け、4月、留学生のための日本語学科を新設、ネパール、ミャンマー、インドネシアからの留学生を迎えます。1学年40名を受け入れ予定であり、隣接地には彼らのための寮「KENSHOKAI えんとつ」を建設しました。多文化コミュニケーションや福祉への高い志を養った人材をここから大きく羽ばたかせ、

社会に送り出せるよう、そして質の高い介護をここから広く地域にお届けできるよう、空へと通ずる「えんとつ」に想いを込めて命名しました。私たち健祥会グループはEPA（経済連携協定）の先駆者として外国人財の受け入れを積極的に推進してきましたが、もはや特定の制度に頼る時代ではありません。今後はあらゆるチャネルを通してアジア諸国の若者たちに日本語と質の高い専門知識を提供し、日本人財だけでは守りきれない介護の未来を守ってまいります。30周年の今年はグループにとっても本学園にとっても、エポックメイキングな年となるのです。

人が持つ強みと
テクノロジーを
ハイブリッドさせて

私たちの仕事は、テクノロジーがいくら進化しようとも「優しい心と手」を持つ「人」にしかできない仕事、専門性と心で人に向き合い、その人生に光を届ける素晴らしい仕事です。IT化の波がもたらす便利さの中に心が埋もれてしまわないよう、人が持つ強みとテクノロジーのハイブリッド型をめざして、いつのときにも健祥会グループの原点「心と心」を胸に、専門性と人間性を磨き続けてください。

皆様方の活躍が後進の刺激となつて、この道をめざす高校生、学び直して専門職をめざす社会人が増えることを切に願うとともに、その活躍に値する母校であり続けたいと思います。どうか母校を専門性の抛り所とし、同窓会を切磋琢磨の場として、成長を止めることなく、社会に安心を紡いでいってください。

この道、
私の選んだ道



ふなこし みのる

船越 稔 さん

●機能回復支援SPINs代表 / 作業療法士

からだをみる
こころをみる
その先の生活をみる



機能回復支援SPINs

板野郡松茂町住吉字住吉開拓159-7

TEL.080-5324-4284 <https://spins-tokushima.com/>

脳裏に蘇った母の言葉
これからは「リハビリ大事」

高校では3年間サッカー漬けの日々だった。サッカーがやりたくて社会人サッカーの強豪企業を受験。入るとばかり思っていたのに試験ではねられた。完全な想定外。看護師だった母からは、これからはリハビリが大事だからと専門学校進学をすすめられたけれど、もう勉強はいやだと、製薬会社に就職する。これだっというためになる仕事だと。

が、そのうち、ちよっと違う、何か違うとの思いが募る。そんなとき、「リハビリ大事」…かつての母の言葉が蘇った。サッカー経験の中でセラピストの存在意義も知っていたから、母の勧めだった理学療法士を志した。徳島健祥会福祉専門学校(旧校名)を受験したものの、勉強からすっか

船越 稔 (ふなこし みのる) 47歳

2005年3月、徳島健祥会福祉専門学校(現:専門学校健祥会学園)作業療法学科を卒業。愛媛県の石川病院(現HITO病院)、徳島県のきたじま田岡病院勤務を経て、2025年8月独立し、「機能回復支援SPINs」を開業。2020年から健祥会学園同窓会会長を務める。



り遠のいていた22歳はあえなく不合格。でも、第2志望の作業療法学科に救われ無事入学し、国家資格をとったのが26歳だった。

当時の学校は、僕のように社会人を経験してから療法士の道をめざした人も多く、年齢もとりどりでいろんな考えに出会えてとても楽しかった。そして生まれてはじめて勉強を頑張った感じ。22で入って、「国家試験落ちたわー」っていうのもカッコ悪いから、必死に勉強した3年間だった。

学びを重ねてきた歲月 この仕事は天職だった

卒業後、3年次の長期実習でお世話になった愛媛の総合病院で10年間勤務。急性期から在宅まで幅広く経験を積む中で先輩から熱く指導いただ

いたのが、患者の生活全体を捉えるという視点だった。同じ疾患名でも、それぞれ症状も違えば患者さんの個性も生活も違う。技術や知識を身につけるだけでなく、生活者としてのその人をトータルで捉えるということに関して、大きな学びを得ることができた。

その後、家族の事情で徳島へ。ずっと学んできた環境適応と活動分析などのアプローチを続けられる環境として、きたじま田岡病院に勤務し、やがてリハビリ部門の責任者に。士長として120人のリハビリ職を束ね、若手を育成する役割を担っていたが、本来僕は技術屋だから、管理職であるより患者さんをみたくてずっと現場も担当し続けた。だって、この仕事のいちばんの喜びは、患者さんの笑顔だから。その笑顔を見るたび、この仕事は天職だと嬉しくなる。

決意の独立 「機能回復支援スピンス」を オープン

社会保険の持続可能性の観点から、早期退院が推奨されるようになって久しい。もちろん医療資源の効率的な利用や長期入院による医療費の増大を防ぐことはとても大切だけれど、だからってもうちょっと入院してリハしたいなと思うケースも多々ある。その現実が苦しい。僕も今年47歳、

作業療法士としての人生を考えたとき、僕の技術と専門性で地域に貢献したいと強く思う。それには、保険でカバーできない領域であっても納得できるまで提供したい。だから思い切って開業の道を選び、2025年8月に「機能回復支援スピンス」をオープンした。

決断を後押ししてくれたのは、忘れられない一人の患者さんの言葉だ。回復期にいた3年目のときに担当した脳卒中の女性。退院前の挨拶の際、校長先生だった気丈な方に「もうちょっと良くなると思ったのに」と泣かれた。恨みつらみで言ってるんではなく心から出てきた言葉だったから、僕よりもっと技術を持った人が担当していれば違っていたのかも。しれないと自分の力のなさが悔しかった。この患者さんとの出来事がいつも胸にあって、常に上をめざすというモチベーションになっている。

あなたの人生が 再び回りだすように いちばん身近な理解者となって

スピンスでは、機能回復支援を大きくうたっている。脳卒中や怪我の後遺症に苦しむ方々が「その人らしい生活」を取り戻せるように、一人ひとりの人生に伴走したい。そして就労支援にも取り組みたい。

就労支援は、障害者職業・産業保健



総合支援センター等の方々との連携をとってすすめていくのだが、施設勤務のOTの就労支援は保険の算定外だったりするため今はまだ手薄な分野だ。今年度、徳島県作業療法士会に就労支援推進委員会が立ち上がったので、今後少しずつ窓口が増えていくかなと思うが、今のところOTが民間で営む就労支援事業所はほぼうちだけ。

仕事復帰までつなげるのはとても難しいし、時間もかかるのだけれど、就労できてこそ初めてその人らしい暮らしに戻る。だからどんなに大変でも叶えてあげたい。

寝て起きて、立ち上がって歩いて、走って、体の動きを診る理学療法士。食事や生活、仕事まで、日常生活の活動を支えるのが作業療法士だ。あなたの人生が再びうまくなりだすようにスピンスでああなたの人生に伴走する。精一杯。僕にとってもスピンスは、作業療法士人生の仕上げのステージなのだから。



笑顔溢れるチームを目指して

山田 琉登 さん 介護福祉学科24期生

勤務先 特別養護老人ホーム 笑顔

+ 健祥会学園を卒業し、早くも5年が経ちました。現在は特別養護老人ホームでユニットリーダーとして勤務しています。入職当初は自分の業務で精一杯で、周囲のことまで手が回りませんでした。今では職員一人ひとりの個性や強みを活かしながら、より良いケアを実践するためのチーム作りができるよう日々努めています。まだまだリーダーとしての経験は浅く、判断に迷う場面も多

いですが、その分達成感も大きく、毎日学びの連続です。今年の実習指導者の資格を取得し、学生の実習受け入れなどにも関わる事が増え、自分が学んできたことや考えを伝える立場になったと実感しています。学生の真摯な姿勢や疑問に触れることで、改めて介護の基本に立ち返ることができ、自分自身も学び続ける大切さを再確認しました。今後は実習指導者としての経験を積みながら、より分かりやすく、実習生に寄り添った指導ができるよう成長していきたいです。実習指導やリーダー業務を通して感じるのは、人を育てる難しさと楽しさです。相手の成長を見守る中で、自分自身の未熟さにも気づかされますが、それが次の成長のきっかけにもなっています。実習生や後輩職員にこの仕事って楽しいと思ってもらえるような雰囲気づくりや関わり方をしていきたいです。これからも、より良いケアの実現と職員が働きやすい環境づくりをめざして努力を重ねたいと思います。そして、利用者様も職員も笑顔で過ごせるユニットをつくれるよう、今後も成長していきたいと考えています。



+ UPDATE

それぞれの現場で頑張る 卒業生近況報告



子どもたちの未来を支えるために

宮浦 達也 さん 保育福祉学科6期生

勤務先 放課後デイ キッズサポート Every

+ 卒業後3年間、児童養護施設に勤め、様々な理由により施設で生活する子どもたちに、家庭復帰や自立支援をめざしたサポートを行っていました。施設で生活する子どもたちと関わる中で、一度揺らいだ家族との関係を修復していくことや、子どもたちが持つ特性の理解を深め、周囲の人々にも受け入れてもらえるように支援することの大切さを学びました。この経験から、施設に入

所する前や家族と子どものつながりが強く結びついている乳幼児期に、より深く必要な支援を行うことが大切なのではないかと考えるようになりました。

その後は、放課後等デイサービスに就職し、利用している子どもの家族や関係機関と連携しながら、子どもたちそれぞれの課題に沿った支援を模索しています。試行錯誤を繰り返す中で少しずつ目標達成をめざしています。社会の中で生きていくために必要なルールや知識、コミュニケーションなどのスキルを身につけるために、運動遊びや個別支援、小集団活動による療育を行っています。また、季節行事や遠足、アート、クッキングなどのイベントを企画し、興味の幅を広げ、様々な体験を通して子どもたちができることを増やし、楽しいと感じられるような支援ができるよう、子どもたちと向き合っています。



これからも気を引き締めて子どもたちと共に成長し、子どもたちが明るい未来を切り開いていけるように支えていきたいと思っています。



人間は脳みそが大きすぎて

中井 依里華 さん 理学療法学科17期生

勤務先 ぜんしん整形外科立川スポーツリハビリクリニック

令和元年に卒業後、徳島県の回復期病棟で6年間勤務し、現在は東京都のスポーツ整形外科クリニックで、整形外科疾患の患者様や学生アスリートのリハビリを担当しています。

理学療法士を志したきっかけは、高校時代に「スポーツトレーナーになるにはどんな資格が必要か」を調べたことでした。柔道整復師や鍼灸師、アスレティックトレーナーなど様々な道がある中で、当時は徳島に

理学療法士の学校しかないと思っており、地元を離れる気もなかったため「じゃあ理学療法士だな」という軽い気持ちで進路を決めたのが本音です。

しかし、入学後は試験や実習が想像以上に厳しく、同期に支えられ、実習先の先生方に励まされながら何とか乗り越えることができました。「自分もこんな理学療法士になりたい」と思える先生に出会えたことは大きな財産で、今でも帰省の際には学校に立ち寄り、当時の先生方とお話しています。

上京を決意したのは、尊敬する理学療法士兼スポーツトレーナーの方のもとで学びたいという強い思いと、スポーツリハを本格的に追求したいという気持ちがあったからです。しかし実際にその環境に飛び込むと、激ムズすぎて撃沈し、キャパオーバーで空回りする日々でした。それでも今気づいたのは、「なりたい自分」と「なれる自分」があるということです。理想に向かって挑戦したからこそ、その大変さも、自分の可能性も知ることができました。これからも行動し続け、自分にしかない理学療法士をめざしていきたいと思います。人が好きで、この仕事が本当に好きだと心から感じています。



患者様と共に考える個別性のあるリハビリ

佐藤 さくら さん 作業療法学科22期生

勤務先 きたじま田岡病院

私は入学前から子育てと真摯に向き合い、入学後も学業との両立に努めてきました。在学中はその両立に悩むこともありましたが、多くの方に支えられ、令和6年に無事卒業することができました。そして現在は、きたじま田岡病院 リハビリテーション科外来部門で勤務し、患者様の生活に寄り添う支援を心がけています。

1年目は、初めての臨床現場と慣れない業務に追われ、環境の変化に対応していくことで精一杯でした。患者様の目標を明確に焦点化できず、リハビリが思うように進まず、自身の無力さや未熟さを感じる日々でした。しかし、2年目に「外来リハビリテーションの役割」を考え直す機会があり、一人ひとりの異なる生活背景や困難な動作の“個別性”の重要性を強く感じるようになりました。今は、実際の生活でどのようなことに困っているのかを丁寧に伺い、その方らしさを大切にしながら具体的な目標を共に考え、立案することで、リハビリの方向性がより明確になると実感しています。また、外来は1回40分と限られた時間で行われるため、治療の大部分は自宅での自主訓練が占めることになります。そのため、適切な訓練方法の指導や実施状況の確認は、患者様の回復過程に大きく影響する重要な役割だと考えています。

子育てと勉強を両立した経験は、私に思いやりと広い視野を育んでくれました。これからもその学びを活かし、患者様の「自分らしく過ごせる毎日」の実現に精一杯貢献できる作業療法士へと成長していきたいと思います。



同窓会勉強会報告

専門職として常に進化し続けるために

「学び」を支える同窓会でありたい

理学療法学科

関節機能の検査および改善に用いる技術を学ぶ

2025/9/26(金)

- 講師：とみおかハートクリニック 田村俊輔氏
- 参加：20人

同窓会勉強会を開催し、関節の機能を調整して動きを改善する手技である「SJF」をテーマに学びを深めました。当日は同窓生20名が参加し、和やかな雰囲気の中にも専門性の高い内容が交わされ、有意義な勉強会となりました。



作業療法学科

本年度同窓会勉強会について 事例報告、事例検討

2025/4/18(金)

- 講師：博愛記念病院 瀬河亮介氏(13期生) 健祥会学園教員 田村恭佑(13期生)
- 参加：会場参加8名 Web参加1名

同窓会勉強会に関する今年度のスケジュールと勉強会についての目的を説明しました。その後、参加者から希望があったため、事例検討会を実施しました。ディスカッションを行い、知識を深め合う事ができました。



障がい像の把握と骨盤下肢に見られる現象の分析と解釈

2025/8/8(金)

- 講師：機能回復支援SPIN S 代表 船越稔氏(3期生)
- 参加：会場参加9名 Web参加1名

「下肢に関する勉強会をしてほしい」と多数の依頼があり、船越先生に講義していただきました。臨床で観察するポイントも教えていただき、参加者は昨年と同様に若手のセラピストが多く、「明日からすぐに現場で行いたい」と好評でした。



保育福祉学科・保育学科

情報交換会 各施設の近況報告

2025/7/12(土)

- 参加：7名

卒業生の各施設での取り組みや現状の課題について情報交換を行いました。和気あいあいとした中で意見交換を行いながら、課題解決の糸口を見つかったり、視野を広げたりすることができ、卒業生同士のつながりも深まりました。



作業療法士から学ぶ 身体を使った遊び

2025/12/6(土)

- 講師：末広ひなたクリニック 松本祐輝氏
- 参加：13名

児童発達支援の現場で活躍している作業療法士の松本先生をお招きし、子どもの発達を促す「体を使った遊び」について学びました。子どもが日常の遊びの中で自然と身に付けていく基礎的な身体能力を育むための具体的な遊びを紹介していただきました。



介護福祉学科

利用者様と一緒にできる「マスコット作り」

2025/7/29(火)

●講師：特別養護老人ホーム 健祥会 家康
ケアハウス 健祥会 うだつ 施設長 大江敏子氏
●参加：19名(内同窓生13名)

実際に利用者様や地域の方々ともに行なったレクリエーションの「毛糸やタオルを使った猫と犬のマスコット作り」を教えてくださいました。参加者からは「さっそく利用者さんとしてます」など大変好評でした。



2025/8/22(金)

施設でのイベントや日常で活かせる「マジック」

●講師：小林ゴールドエッグ
代表取締役 小林真作氏
●参加：16名(内同窓生9名)

身近なものを使って、イベントの場や普段の生活の場でできる手品を教えてくださいました。手品の方法だけでなく、魅せ方やトーク術も楽しみながら学び、「早速、敬老会で披露します！」「この勉強会最高！」との声をいただきました。



2025/9/3(水)

つくる癒やしの時間「ハンドマッサージ」

●講師：ポーラ徳島国府店
シヨップオーナー 河野紀美氏
●参加：24名(内同窓生14名)

講師が介護福祉士、介護支援専門員として活躍されていたこともあり、親近感が湧きより癒やしの空間が広がりました。マッサージのポイントを教えてくださいいただき、いざ実践！「次はフットマッサージを教えてください」などのリクエストが出るほど好評でした。

2025/11/11(火)

想いは伝わる言葉の力
親の介護から学んだこと

●講師：フリーアナウンサー
石川牧子氏
●参加：198名(内同窓生5名)

両親の介護体験をお話しいただき、「訓練を積んだプロに任せる」大切さや「家族にしかできない介護」について学びました。参加者は「プロとしての責任を再確認した」「家族介護者に寄り添える介護者」と決意する機会になりました。



講演会広報チラシ

健祥会学園の イベント情報

同窓生の皆さんにお役立ちの学園関連情報をお知らせします。職場での研修や自己研鑽にぜひご活用ください！
2026年度分については学園ホームページまたはお電話（088-642-9666）でご確認ください。
また、健祥会学園Instagramでも学園情報をお届けしていますので、ぜひご覧ください！

follow us!



健祥会学園 総合



理学療法学科



作業療法学科



介護福祉学科



保育学科

2025/5/9 (金)

育英認定こども園へ 食育を学びに行きました

2025年4月に中昭和町から南昭和町へ新築移転した育英認定こども園に、保育学科2年生が食育授業で訪問しました。茶道師範の園長先生から、お茶のたて方や和菓子の食べ方など、日本人としての食事における礼儀作法を教してもらい、食への感謝の気持ちを育みました。



2025/9/24 (水) - 25 (木)

EXPO2025 大阪・関西万博に サポートボランティアとして参加

EXPO2025(大阪・関西万博)に来場する高齢者や障がい者のサポートボランティアとして学生が参加しました。万博という特別な場で、世界や地域の方々と関わり、多くの学びや経験を持ち帰ることができました。



キャリアアップ 研修 2025

著名な方々に講演していただき、介護の魅力への理解を深めました。来年度も開催を予定しています。

2025/9/2



認知症の方が認識しやすい
生活環境とは？
浅野 朝秋氏

2025/11/11



想いは伝わる言葉の力
～親の介護から学んだこと～
石川 牧子氏

2026/2/14



今思う、
健康と介護について
柿谷 曜一朗氏

同窓会からも初出店！

●2025年10月18日(土)

第30回 学園祭

タイムスリップ

～30年の時を刻む青春物語～



ステージイベントでは学生や教職員が参加し、学校全体を盛り上げました。また鳴門高校の阿波踊り部の皆さんに参加していただき、よりお祭り気分を味わえました。

今年は同窓会からも初出店しました。学園祭のテーマであるタイムスリップをイメージして、懐

かしい瓶ラムネなどを販売しました。体育館では学科体験、ハンドメイド店が数多く出店し、アクセサリや占い、耳つぼなど幅広い年齢層の方が楽しめる学園祭となりました。卒業生の皆さんも学生時代を思い出し、来年もぜひお立ち寄りください。





同窓会長 挨拶

同窓会長 船越 稔

同窓会の皆様、いかがお過ごしでしょうか。春光が待ち遠しい季節になりましたが、皆様におかれましては、福祉、保育、医療とそれぞれの専門分野で地域社会の未来を支えるため、ご尽力されていることと心よりお慶び申し上げます。平素は同窓会活動に対し、多大なるご理解とご協力を賜り、この場を借りて深く感謝申し上げます。

さて、わが国の少子高齢化が急速に進行し、まさに社会保障の維持が最大の課題となる「2025年問題」という大きな節目を迎えました。これは私たち専門職にとって、既存の仕組みを見つめ直し、役割を再構築するように迫る重要な転換点です。

今後、提供するサービスは「量から質へ」と、そして提供した「プロセス」ではなく、得られた「アウトカム（成果）」に重点を置く効果主義的な

視点へと変革を求められています。同時に、どの分野においても人材不足が深刻化する中、同窓生の皆様はこのような激しい社会の変化に対し、専門職としてどのように考え、日々の職務を過ごされているでしょうか？

分野は異なれど、私たちの使命は、地域包括ケアシステムを基盤とし、地域社会へ貢献することにあります。この実現のため、私たちは社会情勢の変化を敏感に察知し、現状に甘んじることなく、立ち止まることなく自己研鑽を続けるには知的好奇心が必要になります。同窓生各々が専門分野の枠を超えた多角的な視点を持ち、その研鑽の成果を持ち寄り共有することで、同窓会がより豊かな学びの場となることを心より期待しております。そして、その知恵や連携こそが、今後の同窓会活動にいかされると考えております。皆様の健康と新時代を切り拓く一層のご活躍を祈念し、私の挨拶とさせていただきます。

2025年度 同窓会役員会 事業計画

2024年度事業報告・会計報告及び2025年度事業計画・予算審議は2025年8月4日(月)開催の第1回役員会で可決されました。

■オープンキャンパスへの協力

各学科教員と同窓会が日時や内容を相談し、同窓生がプレゼンターとして協力します。

Will
バックナンバー
こちらから！

■同窓会報Willの作成

作成したWillで会員の皆さんに同窓会活動や同窓生の活躍をお知らせします。



■2026年度同窓会総会(30周年記念)

学園創立30周年を迎えます。
2026年4月18日(土)に記念総会を開催します。

■各学科勉強会

各学科の勉強会を計画・実施しています。
対面だけではなく、リモートでの実施もあります。

詳細はコチラ→



■専門学校 健祥会学園の発展のための協力

同業の後継者育成のため、同窓生からの入学生推薦をお願いいたします。
本学園へ入学生を推薦して下さった同窓生の方に「3万円×推薦した入学生の人数分の商品券」を本学園から進呈します。

詳細はコチラ→



NEW FACE

新教員紹介



理学療法学科 教員
島 史弥

私は、理学療法士として回復期病院で約6年間従事しておりました。こうして母校である本学園に教員として勤務することになりましたが、学生さん一人ひとりにしっかりと寄り添いながら、これまでの経験を活かして理学療法士の持つ力や魅力を伝えていけるように頑張りたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。



保育学科 教員
美馬 愛子

これまで保育士として保育園で勤務してきました。子どもたちと共に笑い、成長を喜び、悩み、励まし合う…そんな日々の積み重ねこそが保育の魅力だと思っています。その経験を活かし、学生の皆さんに保育の楽しさや、やりがいや魅力を伝えながら共に成長していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。



日本語学科 教員
パロス造田 幸子

今回縁があって、3年ぶりに徳島に戻ってきました。以前3年半の徳島の生活は、みんなによくてもらって楽しい日々を過ごせました。日本語学科新設ということで頑張っていきたいと思っております。趣味は旅行をすること(特に推し活、ライブ参戦)海外へもふらっと行ってしまいます。今後ともよろしくお願申し上げます。

■2025年度 専門学校 健祥会学園 同窓会役員

- 会 長 船越 稔(作業3期)
- 副会長 立石 広志(理学4期)・武田 英二(校長)
- 幹 事 木下 雄二(介護7期)・荒岡 優(介護14期)
- 内田 真理子(介護15期)・多田 裕介(保福1期)
- 加藤 志帆(理学5期)・片岡 一誠(理学12期)
- 西本 篤史(理学8期)
- 長谷部 有哉(作業5期)・武市 薫(作業9期)
- 監 事 竹内 英里子(介護10期)・村中 雛(保育2期)
- 事務局 小谷 盛子(専門学校 健祥会学園)
- 林 かれん(専門学校 健祥会学園)

編集後記

同窓会報「Will」をお読みいただきありがとうございます！ 今年もあっという間に一年が過ぎましたね。AI技術の進化など、社会が目覚ましく変化する時代だからこそ、人と人とのつながりや、対話を通じて培う専門職としての心がより大切だと感じている今日この頃です。今年の学園祭では、同窓会として初めて飲料販売に参加し、学生や卒業生の皆様と温かい交流が生まれました。この収益は、今後の同窓会活動や学生支援

に活用させていただきます。さて、最大のニュースは、平成8年度に開校した本学園が、令和8年度に創立30周年を迎えることです。記念式典を令和8年4月18日に開催することが決定いたしました！ 卒業生お一人お一人のご活躍が築いた30年の歴史を、式典・総会とともに振り返り、未来へつなぐ場にしたいと考えています。ぜひ4月18日のご予定を空け、楽しみにお待ちしております！！

事務局



社会福祉法人 健祥会 専門学校

健祥会学園

専門学校 健祥会学園 同窓会会報 | ウィル

発行元 専門学校 健祥会学園同窓会 発行日 2026年3月1日
〒779-3105 徳島市国府町東高輪字天満 369 番地 1 TEL 088-642-9666

不許複製 ※紙面の写真・文章等に関してはご本人の同意を得て掲載しています